

<香油の価値>

マルコ14:1～11



時：過ぎ越しの祭りの2日前
場所：ベタニヤ村のシモンの家
(エルサレムの東約3キロ)

ひとりの女性が高価な香油の壺を
割ってイエスの頭に注いだ！

弟子 もったいない。なんて無駄なことをする
のか！この香油なら、300 デナリ*
以上に売れて、貧しい人たちに施し
ができたのに！ *約 300 万円

ナルド



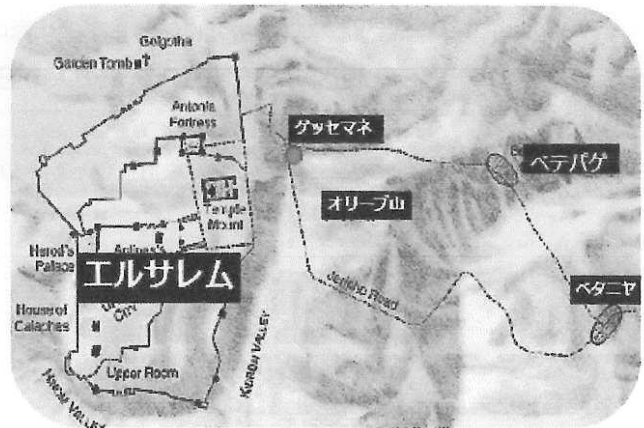
【ナルドの香油】

ヒマラヤ原産の「ナルド」という
植物の根と茎から取った香料。

石膏の壺に詰めて輸出され、

ユダヤ人やローマ人は死体を葬るのに用いた。

香油を惜しまず注いだマリヤと、
惜しんだ弟子。どこが、何が、違ったのか？



◆弟子達は打算的にしか考えられず、マリアの真実な心を理解できなかった。

イエスさま そのままにしておきなさい。なぜこの人を困らせるのですか。わたしのために、りっぱなことをしてくれました。この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです。【6節】

◆「無駄」というのは、するだけの価値がない事をさす言葉。

イエスさまは私たちの救いのために、十字架で死なれたことを「無駄」とは言わない。
主の愛は惜しみなく私たちに注がれた。イスクリオテ・ユダに対しても・・・。

<イエスさまが示した3つの事>

- 1、人びとが理解しなかったマリヤの犠牲的な愛を、正しく評価された
自分にできることをした。埋葬の用意にと前もって油を塗ってくれた。

- 2、貧しい人に対する配慮

イエスさまは、貧しい人たちに対する配慮を軽視されたのではなかった。
これは、その気になればいつでもできる。ただ、油を注ぐのは今しかない。

貧しい人たちは、いつもあなたがたといっしょにいます。……いつでも彼らに良いことをして
やれます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけではありません。

- 3、マリヤがしたことを永遠の記念とした

香油を注いだことは周囲には理解されず、非常識で無駄な事に見えて責められた。
しかし、やがてマリヤのしたことが理解され、世界中に伝えられるようになる。

まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、
この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。

- ◆壺を割ったというのは、自分の為には一滴も残しておく気はなく、すべてを
与えるという現れだった。